取材ご協力学校 青森市立造道中学校

導入事例
てれたっち

先生の「手本動画」を繰り返し自動再生することで技術科の作業の不安を払拭。「てれたっち」が授業のサポート役として活躍しています。

「てれたっち」により、生徒の意欲向上や理解促進、また先生の負担軽減など、様々な効果を得たという青森市立造道中学校。同校で「てれたっち」を活用中の福岡優太先生（社会科）と川守理己先生（技術科）にお話を伺いました。福岡先生は思考スキルを養うツールとして、川守先生は実技指導のサポート役として、「てれたっち」を大いに活用されています。
※先生のご紹介、学校での設置状況などは取材当時のものです。

※ディスプレイは別売りです。

導入商品
外付け型タッチ化ユニット
「てれたっち」
DA-TOUCH / WB

社会科は資料が命。「てれたっち」でたくさんの資料をテンポよく表示

タッチペンで書き込んで回答を共有

「てれたっち」導入時の状況や、社会科での活用方法をお教えください。

福岡先生：私は地理の授業で活用していますが、黒板が1つ増えたという感覚ですね。従来の黒板は生徒がノートに書き写すための板書用として使い、「てれたっち」は資料を表示するために使っています。「てれたっち」があれば、たくさんの資料を画面上にポンポン提示し、テンポよく切り替えて見せていくことができます。書き込みして注目させたり、補足説明をしたりということが、容易にできるようになりました。

書画カメラと「てれたっち」を使った、ワークシートの共有や発表も行われているとか。

福岡先生：授業では紙のプリントをワークシートとして活用していますが、これを書画カメラで取り込んで、「てれたっち」の機能でディスプレイに拡大表示することもあります。従来、ワークシートの共有・発表は口頭のみで行ってきたのですが、言葉による説明のみで発表を行うのは難易度が高く、皆なかなか手を上げませんでした。しかし、「てれたっち」を使って自分のワークシートを見せながら説明する、というスタイルにしてから、積極的に参加するようになりました。生徒自身がタッチペンを持って、大事なところに線を引いたり丸をつけたりしながら説明しています。書き込みながら説明することで、自分の考えをしっかり表現できるようになりました。また、ほかの人のいろいろな考え方、それが書き込まれたワークシートを比較して学んでいます。本校では「思考スキル」を高める教育に力点を置いていますが、「てれたっち」はまさに生徒が「思考・判断・表現」するためのツールとして役立っています。

「てれたっち」による「けがき」作業の録画
①画像表示ソフトで製材された材木の写真を画面表示。
②白板ソフトを透明モードで立ち上げる。
③録画モードにし、ディスプレイ上の板材にさしがねをあててタッチペンで記入。

その場で録画した「手本動画」を繰り返し再生し、わかりやすい授業を実現

川守先生は技術科の授業で画期的な「てれたっち」の使い方をされているとか。

川守先生：技術の授業では、教員が実演して見せる指導場面が多くありますが、ここで「てれたっち」をうまく活用できると、授業のわかりやすさが格段に向上します。1年生の授業では木製品の製作を行いますが、私はその手順のポイントを「てれたっち」を使って説明しています。まず教壇で全員に一斉指導した後、今度は机間支援をしながら一人ひとりの作業をサポートしていますが、この時、液晶ディスプレイに繰り返し正しい手順の動画を表示させておけば、わからない生徒はいつでも確認できます。これにより、作業時の生徒のミスはほぼゼロにまで減らせました。また、基本的な内容を何度も指導する必要がなくなり、生徒一人ひとりの作業に応じた個別の支援に専念できます。技術科は30 ～ 40人程度の生徒をたった1人で指導するので、全員に手厚い指導をするのは難しく、「自分のほかにもう1人サポート役の教員がいて、手分けして指導できれば……」と思っていました。その役割を「てれたっち」が引き受けてくれたように思います。

授業、学級活動、部活――、広がる活用アイデアと今後の展望

今後、「てれたっち」でどんな授業を行いたいですか。また、学校におけるICT活用のヴィジョンがありましたら教えてください。

福岡先生：「てれたっち」を使った授業では、「比較して、関連付けて、説明する」という、考え方のプロセスを重視した「学び」が実現します。やはりこういう面での応用に活用したいですね。たとえば、テーマごとに塗り分けられた同じ地域の地図の比較、――2枚の白地図を用意し、一方は所得の低い地域に色を塗り、もう一方は失業率の高い地域に色を塗ります。それを「てれたっち」上で重ねてみると一致が見られるというような関連付け、そこから何が読み取れるのかなど。こういうビジュアル重視の授業は黒板やプリントだけではなかなか実現しません。

川守先生：ICT活用の必要性は強く感じています。しかし、どこの自治体にも予算の問題はあります。こうした中で、安価かつ既存資産を活用して導入できる「てれたっち」は、実にいいアイデアだと思いました。現状、様々な使い方を模索している段階ですが、今後も積極的に活用していきたいと思っています。

取材にご協力いただいた先生

青森市立造道中学校
福岡 優太 先生

青森市立造道中学校
川守 理己 先生

CLIENT DATA

導入学校／	所在地／	開校／
青森市立造道中学校	青森県青森市	1960年